

スポンサードセミナー17  
スポンサードセミナー B

現地開催のみ

第73回日本産科婦人科学会学術講演会



日時・会場

4.25<sup>2021</sup>  
SUN  
10:20-11:20

第03会場

朱鷺メッセ 3F 中会議室301

# 月経関連疾患に対する 新たな血液マーカーの使用法

-ホルモン療法を行う際の指標として-

座長

太田 博明 先生

藤田医科大学病院 国際医療センター/山王メディカルセンター・女性医療センター

演者

太田 郁子 先生

倉敷平成病院



## 月経関連疾患に対する新たな血液マーカーの使用法

-ホルモン療法を行う際の指標として-

**太田 郁子** 倉敷平成病院

近年、血液検査は進歩をとげ、たくさんの血液マーカーが開発されている。しかし血液マーカーの特異性や感度は個人差が大きく、値から何を読み取るか、何の指標にするかが問題となる。前半では、近年ガイドラインにも記載されたTSECも含めた骨量減少症および骨粗鬆症に対するエストロゲン系骨粗鬆症治療薬 (selective estrogen receptor modulator : SERM) の治療効果および黄体ホルモン剤使用の際の酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ-5b (Tartrate-resistant Acid Phosphatase 5b : TRACP-5b) と骨型アルカリフォスファターゼ (Bone Specific Alkaline Phosphatase ; BAP) の検討について述べたい。TRACP-5bおよびBAPは非常に個人差の大きい骨代謝マーカーであり、年齢とともに大きく変化する。したがって個々に測定しても、得られる情報は限られる。我々はTRACP-5bとBAPの比を算出することにより、単一マーカーによる測定誤差をある程度解消できることを提案する。骨代謝マーカーによりすべての治療効果を知ることは困難であるが、診療の一助として今後使用できると思われる。また後半では抗ミュラー管ホルモン (anti-Mullerian hormone : AMH) について、今後の臨床応用について私見を述べたい。AMHは本邦において、antral folliclesの数を反映することから不妊治療の際の卵巣予備能を推測するために使用されている。しかし海外では多嚢胞性卵巣症候群の診断への応用が提唱されている。多嚢胞性卵巣症候群はロツテルダムの診断基準によって約90%が診断できるため、今更AMHを使用する意義については議論のあるところである。しかし35歳以上のPCOS女性においてはゴナドトロピンの変化はマスキングされ、特徴がわかりにくくなるのが指摘されている。一方、PCOS女性のEIN (Endometrial Intraepithelial Neoplasia) や子宮体癌のリスクは近年指摘されており、生殖年齢を超えてもPCOSの正確な診断が求められつつある。本邦におけるPCOSへAMH測定に対しては、保険適応外であるが、PCOSの診断にAMHが有効である理由から、PCOSの病態について解説をしたい。

今回は血液マーカーから学べる事、そしてそれをどう臨床に反映していくかを考察したい。